

NPO 法人住まいのホームドクター／設計者の会
460-0006 名古屋市中区葵 1-27-32 カイフビル 7階

HD ニュース

No.19
2014.7.15

今後の予定／於：事務局会議室

7月17日(木)18:30～ 木造技術研究会

8月19日(火)18:00～ 相談委員会

8月19日(火)19:00～ 研修会

8月22日(火)18:30～ 木造技術研究会

8月26日(火)19:00～ 役員会

9月9日(火)19:00～ 理事会

愛知建築士会 地域貢献活動助成事業の交付決定！

理事長 滝井幹夫

表記の助成事業に対し、「三河地方の地震と災害に備えた安全な住まいづくり」をテーマに申請し、めでたく交付が決定されました。

新野副理事長の申請書作成についてのお骨折りなどに対し改めて感謝申し上げます。川窪理事には資料提供いただき、本事業完了までご協力の程お願いいたします。また、ヒヤリングに同行の森理事、小川事務局長ご苦労様でした。

助成金額は10万円で、資料の纏めとその書面化

程度に終わると思われていますが、かねてより事業の開拓に努力しながらも遅々として進まない中での今回の実現に喜びひとしおです。

この資料などを使っての各地域での講座などは、次年度に再度の申請や他の助成事業を受ける可能性も多少開けて参りました。

これら事業への会員諸氏の参加・協力を改めてお願いする次第です。

「住まいの博覧会」と木曽川流域材の家づくり

研修委員長 津島勝弥

去る6月28・29日(日)ポートメッセ名古屋にて表題の展示会が催されました。ホームドクターの研修会でとりあげてみたくなる「ネタ」がいくつもあるのではないかと期待し会場をのぞいてみました。

開場時間の10時前には到着したのですが、会場正面にはひっきりなしに貸切バスが到着し、首から「お施主様」と記されたフォルダーを下げた家族連れが旗で引率されて続々入場しているところでした。展示会見学ツアーとして、連携している工務店やホームセンターが招待した人々と思いますが、入場者数の多さはもちろんのこと、展示館内に貸切バスごとの出発待合ブースがあることにも驚きました。

さて、『博覧会』と銘打つほどのこともあり展示、提案される情報量は多く、すべてを見てまわることはできませんでした。

この『博覧会』は、木材市場をルーツとするナイス株式会社の主催で、木造住宅工事を通じてナ社とパートナー連合を組む木材、建材、住宅設備機器のメーカーや団体による展示と、この博覧会を後援する団体によるセミナーとで構成されています。入場に際し、私は、「見学者」と記されたフォルダーをも

らいました。「建設会社・工務店」はあるのですが、「設計事務所」はありません。

今回は、短時間の見学であったためセミナーへの参加はできませんでしたが、その数は多く、「大型木造建築新時代」をテーマとして都市や公共建築の木造化に関するものと、耐震補強やリフォーム、制振、液状化等の地震に備える防災知識を高めるものが実施されていました。その中でもNPO団体主催の名古屋大学教授(減災連携研究センター)福和伸夫氏の「南海トラフ巨大地震への対策セミナー」は、定員100名の事前申し込みが必要なもので、セミナーの目玉だったようです。

展示は2会場に分かれ、ひとつは「木と住まいのパビリオン」というテーマで、木造の建築を主とする工務店と自然素材を扱うメーカーとで構成するいくつかのゾーンや、国内に県産材として木材を供給している8県のゾーンなどがあり。もうひとつは、地震対策を体感、勉強できる「耐震・家づくりパビリオン」というテーマで、建材、設備、商品、工法(装置?)を具体的に紹介し、それぞれを製造販売するメーカーブースが集まったゾーンでした。

「木と住まいのパビリオン」内で、ひと際目立つ

本紙バックナンバーは当会のホームページ<http://www.sumaidoctor.or.jp>からご覧いただけます

構造躯体の「実大模型」ブースでは、ナ社の『地域の恵み、地産地消（ブランド）“木曽川流域材”の家づくり』という新たなモデルが提案されていました。『県産材』という枠をなくし、長野、岐阜、愛知、三重を流れる木曽川の流域から伐り出される木材（信州唐松、長良杉、木曽・東濃桧）を一つのブランドとして提唱していくというものです。構造躯体の各木材に“木曽川流域材”のシンボルマークが貼られ、2階梁上に『オール流域材パッケージ』のパネルが掲げてありました。さらに、「木曽川流域材を使用したお値打ちの家づくり『フルチョイスパッケージ』」を提案するパネルが壁体に貼られていました。誰でも、「すべて（オール）木曽川の流域材を選んでたてた家だ。」と、思います。

ところが、デッキ階段が何となく赤黒く、よくよく説明を聴くと宮崎県産の桧だということ。梁もどうやら遠方のもらしい。間柱や合板は、地産地消にはならない地域の国産材でした。『オール流域材パッケージ』といいながら、木曽川流域材を『フルチョイス』したものではない…、悪意はなくとも日本語として混乱する使い方だと感じました。

実は、ナ社はこれまで『国産材+無垢のEWによ

る付加価値によるこだわり』を提唱していました。しかし、ここでいう『国産材』は「地産地消」となる“県産材”、“地域材”ではなく「多産地連携」による“オールジャパン仕様”でした。『無垢のEW、国産材プレミアムパッケージ』というパンフレットには、ナイス社が、重要度が高いとする項目は「品質と性能」、「コスト」の順で、産地（国産材・地域材）は最下位に明記されています。木材市場を持つ流通の大手であるナ社にとって、これまで「多産地連携」が基本で、「地産地消」は馴染まず、顧客のニーズがあれば対応というスタンスでした。

ナ社に「木へのこだわり」があった故、理念を変遷させた（重要視することになった）のでしょうか。『木曽川流域 水と水の循環システム協議会』の加盟工務店向けとして、メニューをひとつ広げたものなのでしょうか。

いずれにしても『木曽川流域』という観念は、これから重要なものになっていくと思われるので注目していきたいと思います。

第3回研修旅行について

木造技術研究会 寺島一朗

本年の研修旅行は、11月9日（日）10日（月）に開催します。見学地は『紀伊山地の霊場と参詣道』として世界遺産に登録された「吉野、高野山、熊野本宮、世界遺産熊野本宮館、川湯温泉泊」と「西村伊作記念館、錦タワー（大紀町防災塔）三重大学レーモンドホール」を見学予定しています。費用は25,000円程度（参加人数により安くなります。）詳細については後日、案内いたします。

※第1回「姫路・鳥取」（姫路城修復工事、三徳山三佛寺・投入堂、倉吉・白壁土蔵群）第2回「兵庫・



世界遺産熊野本宮館

淡路」（ヨドコウ迎賓館、野島断層保存館、淡路夢舞台、本福寺、神戸女学院、関西学院大学）。

■相談委員会 6/17 18:00~19:00

無料電話相談の相談内容報告、意見、質疑。電話相談当番。例会の運営について。

■技術研修会 6/17 19:00~21:00

「調査の考え方、用意すべきこと、調査方法・補修方法について」講師：瀬瀬誠

■木造技術研究会 6/19 18:30~20:30

研修旅行について。「フラット35対応 木造住宅工事仕様書」読み合わせ

■マンション大規模修繕研究会 6/10 19:00~20:30

ヴェルクレート日比野大規模修繕コンサル業務の見積もり提出について／4社中2番で落選。